



葉は枝先に  
集まってつく

0 2cm

葉

### ヤマモモの特徴

名前は実が食べられることに由来しますが、モモとはあまり似ていません。雄と雌は異なる株で、雌株は初夏に赤く熟した実をたくさん枝先につけ、実は生食のほか果実酒などに利用されます。



花



実

### 六甲山での分布

鉢伏山から鉄拐山にかけてのウバメガシ群落内に大木が生育しています。

### 生育環境や植生との関係

ウバメガシ群落や、海岸近くのやせて乾燥した立地の常緑広葉樹林によく見られます。



葉

鋸歯がない場合と、上の方に浅い鋸歯がある場合とがあります。

### コジイの特徴

葉の裏面に金色の光沢があります。鋸歯がない場合と、上の方に浅い鋸歯がある場合とがあります。

5月の終わり頃、花が枝先でいっせいに開花すると、甘い香りが漂ってきます。よく似たスタジイとは、コジイの樹皮がほとんど割れないのに対し、スタジイの成木の樹皮が縦に深く割れることから区別できます。



花



実

### 六甲山での分布

コジイの大木はほとんど残っておらず、原生のなごりのある限られた場所にしか分布していません。

### 生育環境や植生との関係

コジイ-カナメモチ群集に見られます。

# アラカシ

ブナ科



## アラカシの特徴

葉は長楕円形で先端部に粗い鋸歯があります。表面は濃い緑色で裏面は白みを帯びます。樹皮は灰黒色で、触るとザラザラします。

同じカシの仲間は葉の形がよく似ています。



花\*



実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。海拔約650 m以上では少なくなります。

## 生育環境や植生との関係

各植生の構成種として広く分布する一方、群生してアラカシ林を形成します。花崗岩の崩れやすい急傾斜地にも生育しています。

# ウバメガシ ブナ科



葉は枝先に  
集まって  
つく

0 2cm

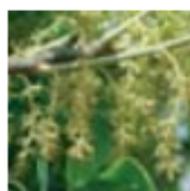
葉

## ウバメガシの特徴

炭の最高級品といわれる備長炭はウバメガシが原料です。

葉は枝先に集まってつき、楕円形で縁が裏側に巻くように反ります。細かい葉脈まで透けて見えます。小さな鋸歯がまばらにあります。

よく似たトペラは鋸歯がないことで区別できます。



花\*



実\*

## 六甲山での分布

須磨の鉢伏山や鉄拐山に、広く分布しています。芦屋、岡本周辺からの登山道沿いでも見られます。

## 生育環境や植生との関係

潮風への耐性が高いため、海に面した山の斜面でよく見られます。

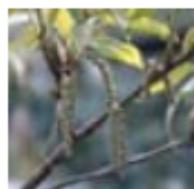
# ウラジロガシ

ブナ科



## ウラジロガシの特徴

名前のお通り葉の裏が白いことが、最大の特徴です。葉の縁は波うち、葉の先が尾状に伸びて鋭くとがっています。常緑広葉樹林を代表するカシの仲間です。



花



実\*

## 六甲山での分布

六甲山系では、中腹から山上（海拔300mから800m付近）の常緑広葉樹林に分布しています。

## 生育環境や植生との関係

人の手によって護られ、残されてきた自然性の高い常緑広葉樹林（ウラジロガシ—サカキ群集）で見られます。

# クスノキ

クスノキ科



葉の脈は  
三行脈

葉の縁は  
やや波打つ

葉

## クスノキの特徴

樟腦（しょうのう）の強い香りが特徴的です。よく目立つ3本の葉脈があり、葉脈の分岐点にふくれた小さな白い点があります。葉の縁はやや波打ちます。葉や茎を折って、樟腦（しょうのう）の香りがすればクスノキです。



花



実

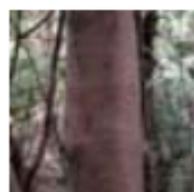
## 六甲山での分布

六甲山系の西側に広く分布しています。山麓の神社でも大木を見られます。

## 生育環境や植生との関係

社寺林などの常緑広葉樹林で見られます。クスノキは日本には自生しておらず、六甲山系のクスノキも植栽に由来しています。

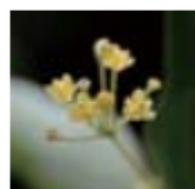
# ヤブニッケイ クスノキ科



樹皮

## ヤブニッケイの特徴

シナモンでおなじみの「ニッケイ（肉桂）」と同じ仲間で、藪に生えるという意味で「ヤブニッケイ（藪肉桂）」という名がつけました。葉をもむとニッキやシナモンに似たよい香りがします。葉は3本の脈が目立ちます。シロダモは、葉の裏は白色で、つき方は枝先に集まってつきます。イヌガシは匂いがほとんどなく、クスノキは樟脳の匂いがします。



花\*



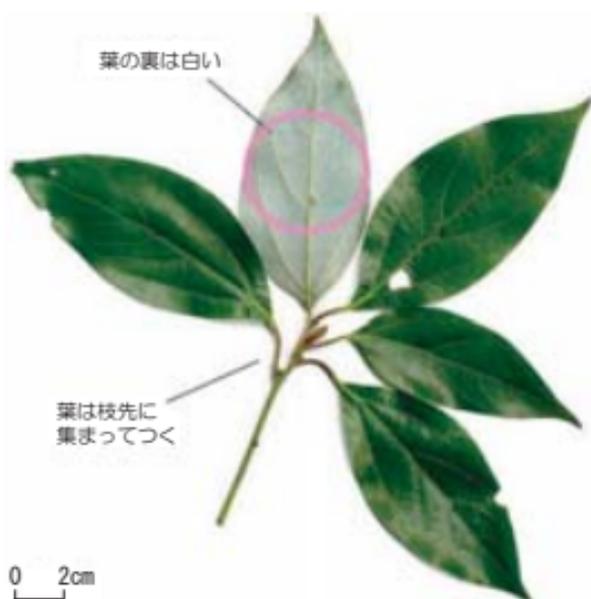
実

## 六甲山での分布

表六甲の照葉樹林帯に広く分布していますが、一方、裏六甲には点々としか分布していません。

## 生育環境や植生との関係

照葉樹林だけでなく二次林にまで広がっています。



葉の裏は白い

葉は枝先に  
集まってつく

葉

## シロダモの特徴

葉の裏が白いことが大きな特徴です。枝先に葉がたれ下がるように集まってついています。葉の縁は波状の鋸歯があり、葉の裏には絹のような毛があります。

よく似たイヌガシやヤブニッケイは、どちらも葉の裏が白くなりません。



花



実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。表六甲に多く見られます。

## 生育環境や植生との関係

様々な群落で見られます。特に、ウラジロガシ林に多く生育しています。

# ヤブツバキ ツバキ科



葉 葉の縁の  
鋸歯は浅い

葉 葉の表に  
光沢がある



葉

樹皮

## ヤブツバキの特徴

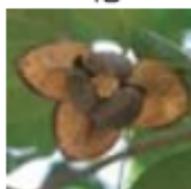
六甲山系を代表する常緑広葉樹のひとつです。

赤い花を咲かせます。葉には光沢があり、細かい鋸歯が特徴的です。また中央の葉脈が表面に少し浮き出て目立ちます。

ヒサカキやソヨゴと同様に繁茂して林床への光を遮っている場所も見られ、そのような場所では、植物の種多様性の低下が懸念されています。



花



実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

ウラジロガシ林、コジイ林など常緑広葉樹林でよく見られます。

# サカキ ツバキ科



## サカキの特徴

いつも緑色の葉がついているため、「栄木」の意味で名付けられています。また「榊」と表記されるように、枝は神事に用いられるなど、古くから人との結びつきの深い木です。

平らな葉が左右に平面的につき、葉の裏の葉脈は目立ちません。小枝の先に、鎌の刃のように細く曲がった新芽があります。



花



実

## 六甲山での分布

表六甲では、自然性の高い常緑樹林に分布しています。六甲山の中腹付近に分布が偏っています。

## 生育環境や植生との関係

コジイ林、ウラジロガシ林で見られます。

Ⅲ

解説

常緑広葉樹

# ヒサカキ ツバキ科



## ヒサカキの特徴

名前の由来は「姫サカキ」がなまったものだとわれています。

葉脈が少しだけ表面に浮き出て見え、葉の先端がへこんでいます。雌株と雄株に分かれていて、雌株は秋から冬にかけて、黒い小さな実をたくさんつけます。春先の開花期には、特有の香りがします。



花



実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

二次林に広く分布しています。特にウラジロガシ林、コジイ林、ウバメガシ林内ではよく見られます。

# カナメモチ

バラ科



## カナメモチの特徴

この木の材が鎌の柄や扇の要（かなめ）に使われており、「要に使う、モチノキに似た木」からカナメモチと呼ばれるようになったといわれています。

別名アカメモチと呼ばれるように、新芽が赤く、とてもよく目立ちます。葉はかたく、鋸歯は鋭くて、逆なですると痛いぐらいです。中央の葉脈がはっきりしています。



花



実

## 六甲山での分布

常緑樹林帯の比較的海抜の低い所（50mから400m）に分布しています。

## 生育環境や植生との関係

常緑落葉樹林でよく見られます。

Ⅲ

解説

常緑広葉樹

# ナナミノキ

モチノキ科



0 2cm

葉



樹皮

## ナナミノキの特徴

ナナメノキともいいます。10～11月にたくさんついた果実が赤く熟す様子から「七実の木」、また果実の先が少し曲がっているので「斜めの木」など、名前の由来についてはいろいろな説があります。樹皮からは「とりもち」が取れます。

クロバイは、葉の感じは似ていますが実が黒く熟すこと、葉柄が少し赤みを帯びることで見分けられます。



花\*



実\*

## 六甲山での分布

六甲山の山麓に点在しています。

## 生育環境や植生との関係

暖かい地方の照葉樹林に生育し、エノキ、ムクノキとともに生育していることが多いようです。

# イヌツゲ

モチノキ科



## イヌツゲの特徴

六甲山系を代表する常緑低木です。名前の由来は、葉が層をなして次々につく様子を表す「ツゲ」に、役に立たないという意味の「イヌ」がついたものだといわれています。

常緑広葉樹で、小さな葉がたくさんつくのが特徴です。よく見ると、小さくてとがった鋸歯があります。モチノキ科の植物の多くが赤い実をつける中、イヌツゲは黒い実をつけます。



花



実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

様々な環境で見られます。特に、アカマツ林では、高頻度で出現します。



## ソヨゴの特徴

六甲山系を代表する常緑広葉樹のひとつです。葉が風に吹かれてソヨソヨと音をたてるので「ソヨゴ」と呼ばれるようになったといわれます。

葉の縁に鋸歯はなく、はっきりと波うっています。葉をもんでいると粘り気が出てきます。秋から冬にかけて、小さな赤い実がたくさんつきます。



花



実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

乾燥した尾根部や斜面上部によく見られます。様々な群落で見ることができ、特に二次林に多く生育しています。

# クロガネモチ

モチノキ科



樹皮

## クロガネモチの特徴

クロガネモチは赤い実をたくさんつけ、鳥が好んで食べます。縁起の良い木として庭に植えられるほか、公園の街路樹としても植えられます。モチノキと同じように樹皮から「とりもち」を採ることができます。

モチノキは葉が厚く、日にかざしても葉脈がほとんど見えません。クロガネモチは中央の脈に沿って葉が折れ曲がっているのが特徴です。



花



実

## 六甲山での分布

表六甲の山麓にある照葉樹林と社寺林で見られます。岡本の保久良神社には大木があります。

## 生育環境や植生との関係

アラカシ群落を代表とする樹木です。そのほか社寺林などに生育しています。



葉の裏は白銀色

枝にトゲがある

0 2cm

葉

## ナワシログミの特徴

葉の裏面には小さな銀白色の毛がつき、金属光沢のように光り、斑点のような独特の模様をつくっています。大きなものは枝が垂れ下がっているか、他の木にもたれかかっています。

よく似たツルグミとは、ナワシログミの葉の縁が波状になり、枝にトゲがあることで区別します。



花



実

## 六甲山での分布

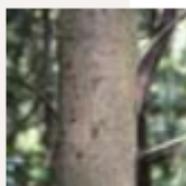
海拔850m以下の地域に広く分布しています。特に表六甲の650m以下の地域に多く見られます。

## 生育環境や植生との関係

二次林から自然林まで、広く見られます。



葉

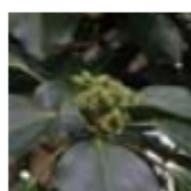


樹皮

### カクレミノの特徴

葉の形もさることながら、密集してついている様子までもが身を隠す蓑に似ていて、これが名前の由来だといわれています。日陰にも耐えるため、庭木や工場に植えられたりします。

葉は3本の脈が目立ち、質厚く、光沢があります。花をつける枝の葉は分裂しないこともあります。



花



実

### 六甲山での分布

須磨の鉢伏山や鉄拐山のウバメガシ群落内に多く生育しています。

### 生育環境や植生との関係

照葉樹林を代表する種で、六甲山ではウバメガシ群落などでよく見られます。カクレミノは日陰にも耐えるため、暗い林内でも生育できます。

葉は枝先に  
集まってつく



葉



樹皮

## アセビの特徴

樹木には毒があり「馬が酔う」との意味合いで、馬酔木（アセビ）と呼ばれます。花の時期は早く、2月半ばから咲き始める壺状の花は透けるような白で美しく、離れた場所からでも容易に見つけることができます。昔から庭木とされ、いろいろな園芸品種があります。



花



実

## 六甲山での分布

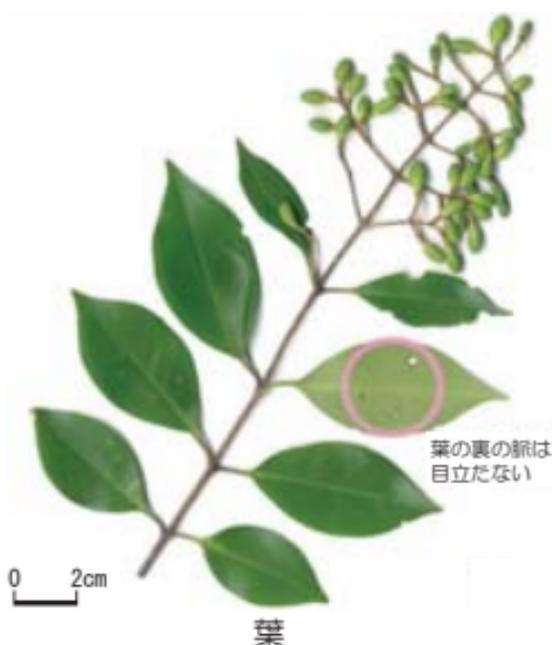
六甲山全域に広く分布します。アカマツ林では、アセビばかりが繁茂している場所もあります。

## 生育環境や植生との関係

アカマツ-モチツツジ群集やブナ-シラキ群集のような明るい森林を好んで生育しています。

# ネズミモチ

モクセイ科



## ネズミモチの特徴

六甲山系を代表する常緑広葉樹のひとつです。

実を「ネズミの糞」に見立て、葉がモチノキの仲間に似ていることから、「ネズミモチ」の名がついたといわれています。

葉は対生で厚く光沢があり、全縁で両面とも毛がありません。



花\*



実\*

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。特に表六甲の海拔700m以下の地域で多く見られます。

## 生育環境や植生との関係

常緑広葉樹林でよく見られます。二次林から自然林に広く生育します。

Ⅲ

解説

常緑広葉樹



ネズミモチより葉脈が明らか

0 2cm

葉

## トウネズミモチの特徴

庭木や公園樹としてよく植えられる中国原産の外来植物です。

ネズミモチと同様に葉は対生で、厚く光沢があり、全縁で両面とも毛がありません。

葉脈を透かすと、よく似たネズミモチの葉脈は不透明、トウネズミモチの葉脈は半透明なので見わけることができます。



花\*



実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。特に表六甲の海拔700m以下の地域で多く見られます。

## 生育環境や植生との関係

常緑広葉樹林でよく見られます。二次林から自然林に広く生育します。

# アカマツ マツ科



葉の先は針の  
ようにとがる



葉



樹皮

## アカマツの特徴

やせた土地でも生育することができるため、古くから治山のために植栽されてきました。

針状の葉と、赤みを帯び亀甲に割れ目の入る木肌が特徴です。遠目でも色や樹形ですぐにわかります。

アカマツの葉は比較的やわらかく、先に触れても痛くありません。よく似たクロマツは葉は硬く、触ると痛いので区別できます。



花



実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

ほかの植物では生きていけないような岩場ややせ地でも生育します。

Ⅲ

解説

針葉樹

# スギ スギ科



葉の先は鎌の  
ように曲がる



葉



樹皮

## スギの特徴

日本を代表する植栽木です。スギの葉と細い枝は、線香の原料としても利用されてきました。

幹は直立し、樹皮は赤褐色で縦に裂けません。花は2月から開花し、花粉は3月から4月頃まで飛んでいます。葉は鎌のように曲がって先はとがり、細かな葉が、らせん状にびっしりと付きます。

スギの葉の先はとがるのに対し、よく似たヒノキの葉はとがりません。



花



実

## 六甲山での分布

摩耶山天上寺跡から青谷にかけての人工林には、樹齢100年を超える大樹が見られます。

## 生育環境や植生との関係

多くの水分を必要とするため、谷部によく植栽されます。植栽地から広がり、ウラジロガシ林やアカマツ林内にも生育しています。



## ヒノキの特徴

有用材として植栽され、建材として用いられました。

葉は平面的に枝につき、ウロコが重なったような形をしています。葉や幹はさわやかな香りがします。

よく似たスギとは葉で区別できます。スギは枝から立体的につき、トゲのようにとがって触ると痛いのに対して、ヒノキは枝から平面的につき、触っても痛くありません。



## 六甲山での分布

各地に植栽されています。

## 生育環境や植生との関係

スギに比べて乾燥地に強く、斜面上部や尾根などによく植栽されます。種子から実生苗もよく育ち、尾根のアカマツ林などでも見られます。



はじめ毛が密生するが、  
後に無毛になる

0 2cm

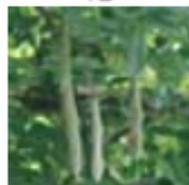
葉

## フジの特徴

昔はツル細工に活用されていました。5月に藤色の花を咲かせます。細長い葉が鳥の羽のように並んでつきます。六甲山で見られるフジの仲間には、フジ（藤）とナツフジ（夏藤）があります。葉の縁で区別することができ、ナツフジの葉は縁が波うちますが、フジはあまり波うちません。また、ナツフジの花は夏に咲き、クリーム色です。



花



実\*

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

林縁を指標する種ですが、林内にも多く、林の種類を問わず広く見られます。

# ツタウルシ ウルシ科



幅広い小葉3枚  
からなる複葉

葉\*

## ツタウルシの特徴

他の樹木の幹などをよじ登ったり、地面を這ったりしています。5月から6月頃、小さな多数の花をつけます。実は8月から9月頃に熟します。葉は複葉で、3枚の小葉からなります。若い葉には荒い鋸歯がありますが、成長とともになくなります。秋の紅葉は美しく、林を彩ります。

触れるとかぶれてしまうため、注意が必要です。



花\*



実

## 六甲山での分布

六甲山系の中腹以上で見られますが、数は多くありません。

## 生育環境や植生との関係

ブナ林や暖温帯の山地帯の落葉広葉樹林内で見られます。

Ⅲ

解説

つる植物（木本）

# マダケ イネ科



全景

## マダケの特徴

竹細工の材料として、昔は利用価値が高く、林の手入れが行き届いていましたが、今では、放置されている竹林がほとんどです。

花は120年に一度咲くと言われていません。節の環は二重です。



節



葉

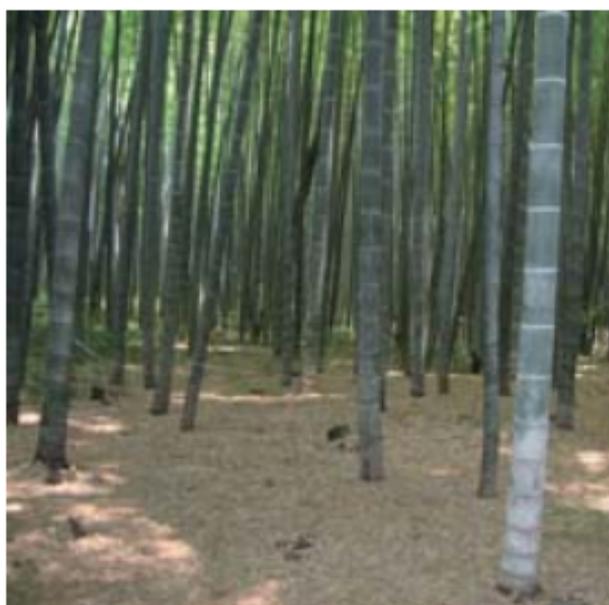
## 六甲山での分布

ほとんどが裏六甲か須磨周辺の山麓部に分布しています。

## 生育環境や植生との関係

住宅地の周辺で局所的に、小面積の群落が見られます。

# モウソウチク イネ科



全景

## モウソウチクの特徴

昔は建築用材、農業資材などとして用いられていました。筍は食べられます。稈は太く、高いものは高さ20mになります。節の環は1重です。花は60年から100年に一度、一斉にイネに似た花が咲くといわれています。タケは皮で区別できます。モウソウチクの皮は毛が生えていてザラザラで、マダケの皮は毛が無くツルツルです。



節



皮

## 六甲山での分布

ほとんどが裏六甲か須磨周辺の山麓部に分布しています。

## 生育環境や植生との関係

住宅地の周辺で局所的に、小面積の群落が見られます。

# ネザサ イネ科



全景

## ネザサの特徴

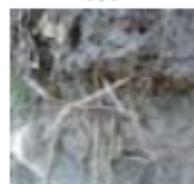
葉は茎の上の方につきます。地下に茎を伸ばし、密集して生えます。

山麓のハイキング道沿いや、ニセアカシア林の林床などにたくさん生えているのがネザサです。

海拔400mから600mあたりを境に、より高い所ではミヤコザサやスズタケというササが優勢となります。



葉



地下茎

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布していますが、自然性の高い林や、林内が暗い林には分布していません。

## 生育環境や植生との関係

日当たりのよい林内や林縁でよく見られます。ネザサが繁茂すると光が遮られて、林床の草花は生きていきません。